

III 取り組むべきまちづくりの課題

1. まちづくりの課題

(1) 現行の都市計画マスタープランの取組方針

都市計画分野		内 容
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ○将来的に人口減少に転ずることを見込んだ土地利用方針の検討 ○地域地区を活用した土地利用の誘導と農地保全 ○都市計画道路や箱物整備はほぼ完了し、機能強化や積極活用に転換 ○既成市街地の狭隘道路の拡幅 ○“都市の顔”については、引き続き積極的に市街化を促進 ○各地域の特性に応じた市街地形成
都市防災		<ul style="list-style-type: none"> ○根来川等やため池の改修・補修、一時貯留機能のある周辺水田の保全 ○がけ崩れ等の災害が発生する恐れのある地区に対する防災対策事業の早期実施 ○公民館や学校等の耐震補強、避難道路の整備推進 ○防災設備を備えた公園整備推進（既存公園） ○行政と自主防災組織の連携による総合的な防災体制の確立
市街地整備		<ul style="list-style-type: none"> ○広域道路整備は完成 ○市街地とのアクセス性向上を図る ○岩出駅から市役所への沿道整備 ○良好な居住環境の保全を図るための都市政策の検討
都市施設整備	道路・交通施設	<ul style="list-style-type: none"> ○主要幹線道路はほぼ完了 ○岩出駅周辺や既成市街地の生活道路の拡幅等による安全性の確保 ○平野部での格子状道路網の整備推進 ○コミュニティバス等の地域公共交通の利便性の向上 ○パークアンドバスライドは推進中
	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ○都市公園の整備目標は7.94㎡/人で未達成だが、その他の公園・広場を含めると確保 ○新規公園整備から既存公園の適正維持管理や機能強化に転換
	河川・下水道	<ul style="list-style-type: none"> ○流域全体の治水・利水環境を考慮し、河川改修を促進 ○紀の川、春日川、住吉川の整備を促進 ○計画的な公共下水道の整備推進と下水道計画区域以外の水洗化・合併処理浄化槽の設置指導による水質悪化の防止 ○処理区域拡大に伴い処理場を拡充
環境形成		<ul style="list-style-type: none"> ○良好な自然環境を有するため池・河川等で環境に配慮した整備 ○開発許可の規模要件の縮小や技術基準の強化による、農住共生ゾーンの無秩序な市街化抑制（適正な運用） ○広域連携軸沿道エリアへの住宅立地の規制 ○自然共生ゾーンは、まちづくり計画に基づいて危険地区の解消や農業基盤の整備等、計画的なまちづくりを推進 ○和泉葛城近郊緑地保全区域は、森林の保全・活用 ○市街地における良好な居住環境の保全 ○市役所、学校等公共建築物や公園等の公共施設、不特定多数の利用が見込まれる民間施設を含む公共空間のバリアフリー化推進 ○改造経費の助成などによる住宅等のバリアフリー化を促進
都市景観形成 (歴史文化・観光)		<ul style="list-style-type: none"> ○和泉山脈の森林景観、山麓景観、紀の川河川軸景観の保全 ○都市と農地の調和した田園景観の保全 ○国道24号や交流軸等の道路軸景観形成と景観ガイドラインの策定による沿道景観形成 ○岩出根来インターチェンジ周辺も併せた根来寺一帯の歴史景観の保全・向上

(2) 岩出市の現状把握

都市計画基礎調査・統計データや各所管課が把握している課題などから、現在の岩出市の状況を把握しました。

都市計画分野		内 容
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ○人口増加に伴い、市民のライフスタイルやニーズの多様化複雑化 ○農地活用の減少と宅地等への転用が続き、農地面積と宅地・産業用地面積がほぼ拮抗 ○農地転用による宅地化は継続中 ○都市計画道路整備はほぼ完了 ○国道24号沿いの商業は充実 ○事業所数は減少しているが、売場面積は増加しているため、店舗の大型化が進んでいる ○岩出根来インターチェンジ付近に流通センター等の立地を誘導 ○住環境等に悪影響を及ぼす施設の立地抑制
都市防災		<ul style="list-style-type: none"> ○山麓に大規模なため池が点在 ○上水道の整備率は97%と高い水準にあるが、耐震化率が41% ○橋梁、学校、公民館等、公共施設の耐震化は完了、避難道路の安全性の検討 ○災害支援活動拠点としての防災機能を有する公園整備（堀口、西国分、中島） ○住宅の耐震化率は令和2年度末時点で89.4%、（補助実績：診断648件、改修96件）
市街地整備		<ul style="list-style-type: none"> ○交流拠点は、インターチェンジの整備、市道根来安上線の開通、県道泉佐野岩出線の4車線化など、北の玄関口にふさわしい都市施設の形成 ○国道24号沿線は大型商業施設が集積し、利便性の高いコンパクトな市街地形成を実現 ○岩出駅から市役所を経て西野橋に至る県道小豆島岩出線（一部未了） ○市内住宅に対する空家率は低い状態にあるが、未利用住宅は増加傾向 ○空家等対策（空き家の流動化）
都市施設整備	道路・交通施設	<ul style="list-style-type: none"> ○主要幹線道路の整備計画はほぼ完了し、幹線道路間を結ぶ生活道路を整備中 ○宅地開発に伴う行き止まり道路が多く、道路接続による環状化が必要 ○まちの都市化により、市内道路網の整備が進むことで、道路交通の利便性が向上 ○一部の幹線道路の歩道整備の推進が必要 ○あらたな幹線道路として市道金屋荊本線を整備中 ○路線バス、コミュニティバスは一定の利用者があるものの、利用者数は減少傾向
	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ○都市公園の整備面積は約42.7haとなっており1人当たり整備面積7.9㎡/人 ○都市公園の標準面積10㎡/人を下回っているが、その他の公園等を含めると260haを超えている ○団地内公園（318箇所）の遊具点検や市民と協働での適正管理
	河川・下水道	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水被害の軽減・解消に向けた取組の推進 ○国営総合農地防災事業や紀の川狭窄部対策、県河川（根来川・住吉川）改修により、浸水被害防止対策に取り組んでいる ○浸水被害軽減対策として、大町排水路の新設や岡田・山崎地区での排水ポンプ設置を実施 ○下水道の普及率は51.9%となっており、令和12年度に事業完了予定
環境形成		<ul style="list-style-type: none"> ○宅地開発等が進み、良好な景観形成の維持が困難 ○農地から宅地への転用が継続 ○「岩出市開発事業に関する条例」に基づく適正な開発指導 ○広域連携軸沿道エリアへの住宅立地の規制（少数の立地が見られる） ○近郊緑地保全区域での造成等の行為を行う場合は届出が必要（市北部山間地） ○他法令及び条例等と連携した住環境対策の実施 ○住宅のバリアフリー改修工事に伴う固定資産税減税制度創設 ○岩出駅バリアフリー化済み ○学校施設長寿命化計画でバリアフリー化を優先整備と位置づけ
都市景観形成 （歴史文化・観光）		<ul style="list-style-type: none"> ○和泉山脈、紀の川等、豊かな自然環境を保有 ○田園、山林、紀の川、市街地景観等地域ごとに特徴のある多様な景観を保有 ○岩出根来インターチェンジ周辺で、根来寺を中心に、岩出市立岩出図書館、岩出市民俗資料館などによる文化文教ゾーンを形成 ○市の玄関口にふさわしい、岩出根来インターチェンジ周辺での企業誘致の促進 ○観光客数は増加傾向が強く出ており、令和元年度では、外国人の宿泊客が前年の3倍 ○広域ネットワークを活かした観光産業の活性化

(3) 課題抽出

現行都市計画マスタープランでの取組方針やその後変化した社会の潮流なども勘案して、本計画で取り組むまちづくりの課題を抽出しました。

都市計画分野		取り組むべき課題
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ●まちな部の都市化、生活基盤の向上 ●農地や山林等の自然環境の保全 ●広域的なネットワークの変化に対応した都市構築 ●インターチェンジ付近の産業用地の確保 ●生活環境を守るための土地利用の誘導
都市防災		<ul style="list-style-type: none"> ●災害時に安全性を確保できる施設整備の推進 ●避難場所、避難路の確保 ●防災啓発活動による住宅の耐震化の推進
市街地整備		<ul style="list-style-type: none"> ●広域ネットワークを有効活用し、地域経済の発展を支える市街地の形成 ●全世代が安心して便利に暮らせる市街地の形成 ●安全で安心して暮らせる豊かな住宅地の形成
都市施設整備	道路・交通施設	<ul style="list-style-type: none"> ●主要道路間を結ぶ道路網の整備（生活道路の環状化） ●交通環境の変化に対する安全対策 ●市道金屋荊本線の推進（整備中） ●ハード・ソフト施策による総合的な交通ネットワークの検討
	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の憩いの場となる身近な公園・緑地の整備・充実 ●既存施設の有効活用、耐震化、維持管理・改築更新
	河川・下水道	<ul style="list-style-type: none"> ●河川改修、ため池改修・補修による浸水被害の防止 ●浸水対策区域等の排水施設整備 ●計画的な下水道整備
環境形成		<ul style="list-style-type: none"> ●適正な開発指導による住宅開発の誘導と豊かな自然環境や緑の多い住宅地形成 ●自然、歴史による景観形成 ●空き家及び低未利用地に対する生活環境対策 ●全ての空間のバリアフリー化の推進とユニバーサルデザインの導入
都市景観形成 (歴史文化・観光)		<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的景観と自然環境の豊かさを活かした地域特性に応じた都市景観の創出 ●景観形成による地域の誇りや魅力の維持向上

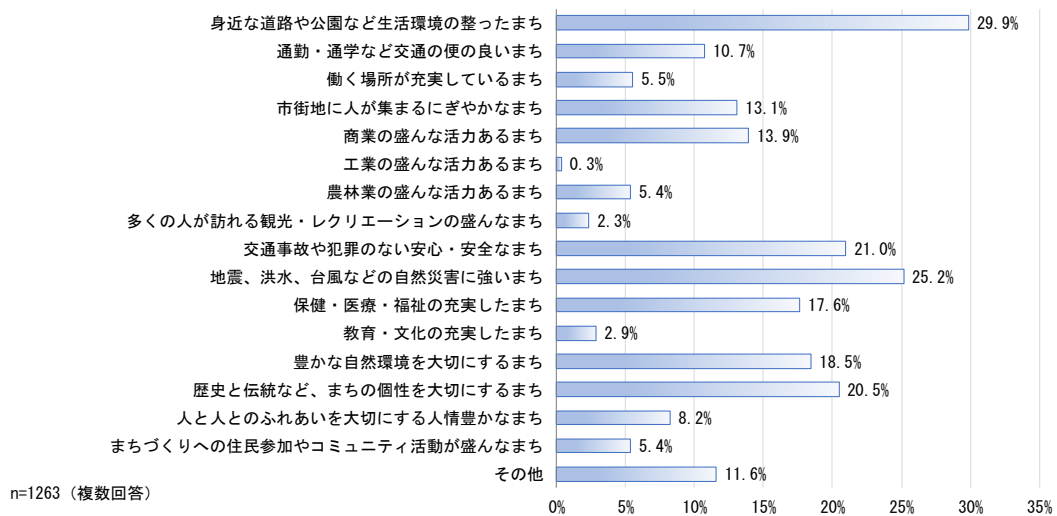
(4) 市民ニーズ

市民が望んでいる本市の将来像を把握するための住民アンケート調査を実施しました。

○現在の岩出市のイメージ

現在の岩出市のイメージについては「身近な道路や公園など生活環境の整ったまち」が29.9%で最も多く、次いで「地震、洪水、台風などの自然災害に強いまち」が25.2%、「交通事故や犯罪のない安心・安全なまち」が21.0%、「歴史と伝統など、まちの個性を大切にするまち」が20.5%となっています。

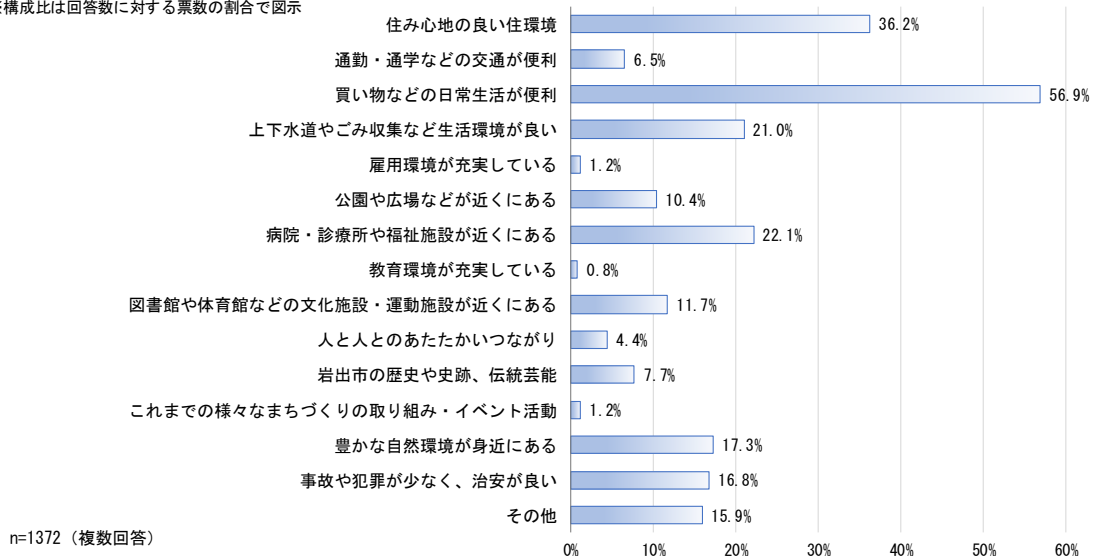
※構成比は回答数に対する票数の割合で図示



○現在の岩出市の魅力

現在の岩出市の魅力については「買い物などの日常生活が便利」が56.9%で最も多く、次いで「住み心地の良い住環境」が36.2%、「病院・診療所や福祉施設が近くにある」が22.1%、「上下水道やごみ収集など生活環境が良い」が21.0%となっています。

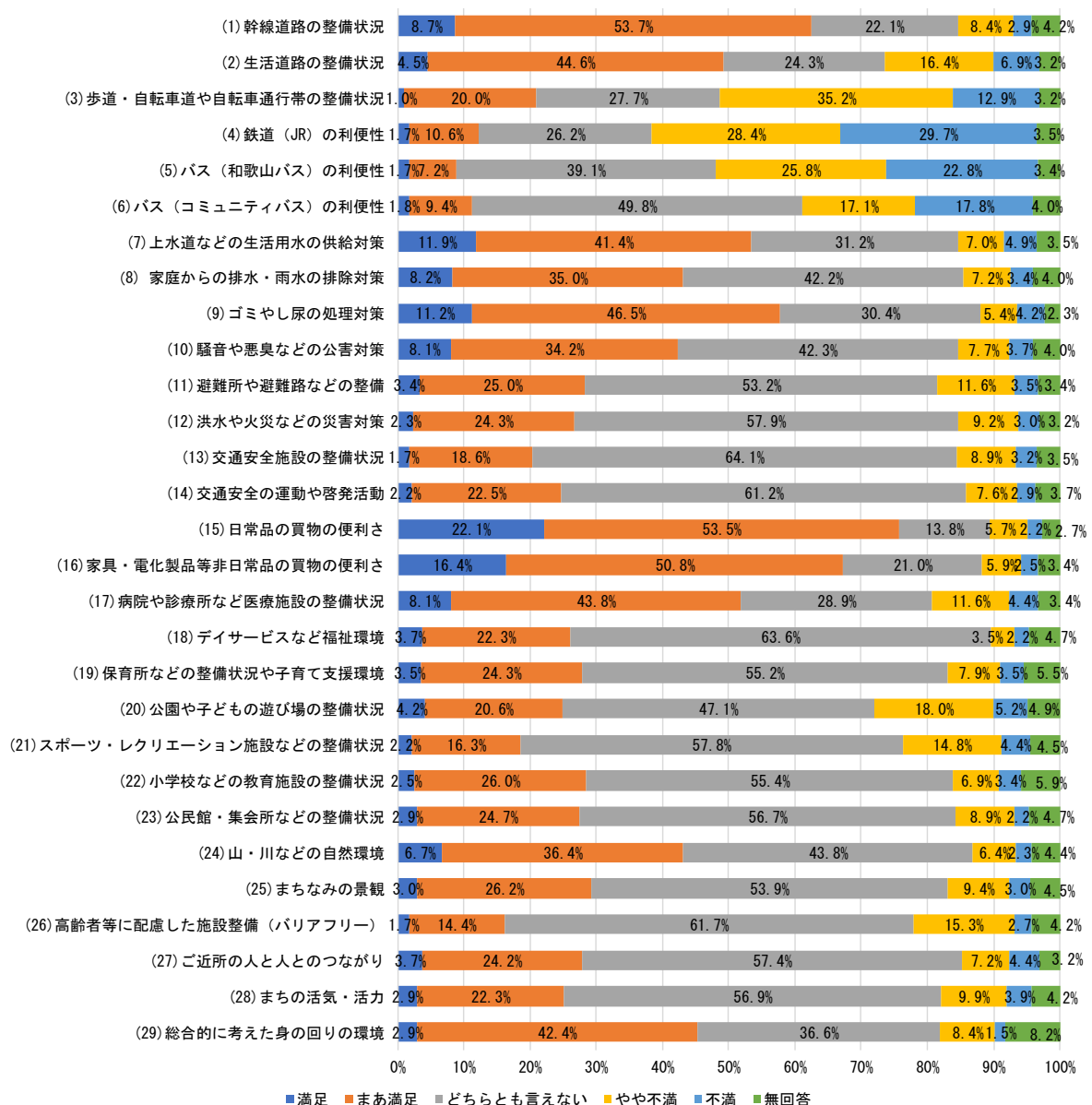
※構成比は回答数に対する票数の割合で図示



○生活環境の満足度

住まいの生活環境の満足度について“満足”（満足+まあ満足）と答えた人が最も多かった項目は「(15)日用品の買物の便利さ（75.6%）」で、次いで「(16)家具・電化製品等非日用品の買物の便利さ（67.2%）」「(1)幹線道路の整備状況（62.4%）」となっています。

一方、“不満”（不満+やや不満）と答えた人が最も多かった項目は「(4)鉄道（JR）の利便性（58.1%）」で、次いで「(5)バス（和歌山バス）の利便性（48.6%）」「(3)歩道・自転車道や自転車通行帯の整備状況（48.1%）」となっています。



○生活環境の重要度

住まいの生活環境の重要度について、“重要”（重要+まあ重要）と答えた人が最も多かった項目は「(17)病院や診療所など医療施設の整備状況（75.3%）」で、次いで「(2)生活道路の整備状況（74.2%）」「(15)日常品の買物の便利さ（73.3%）」となっています。

“重要でない”（重要でない+あまり重要でない）と答えた人が最も多かった項目は「(6)バス（コミュニティバス）の利便性（9.7%）」で、次いで「(5)バス（和歌山バス）の利便性（8.4%）」「(4)鉄道（JR）の利便性（6.7%）」となっています。

